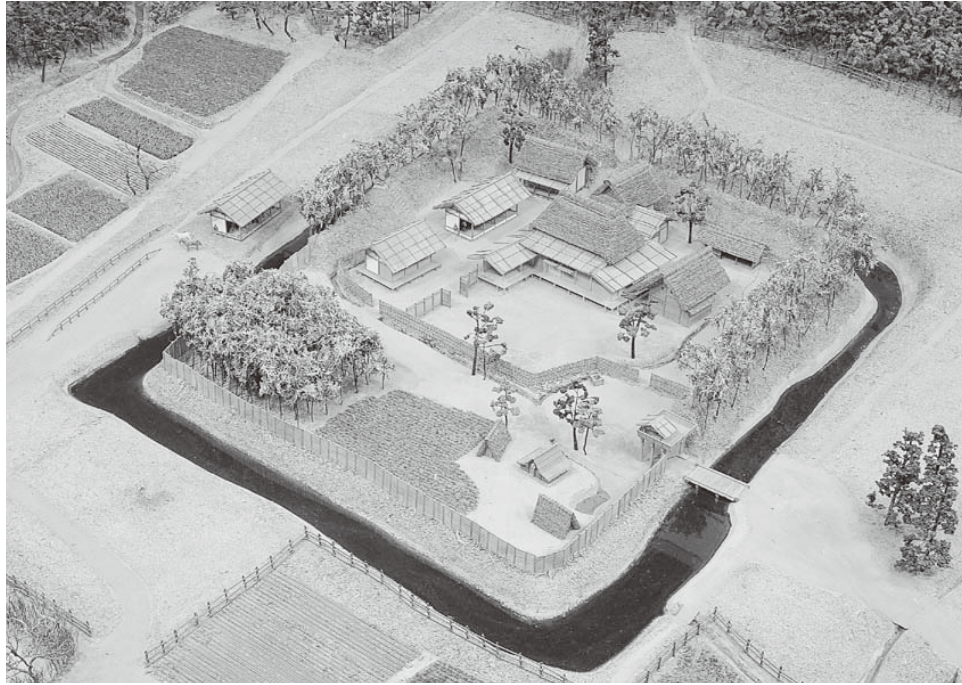


東国の混乱と武士のおこり

関東は、朝廷のあった京都から遠いため、国の支配が弱く国司や豪族の争いが続いて、政治は、乱れていました。この間、次第に現地の豪族が力を持つようになったため、朝廷は、役人をつかわして乱れをなくそうとしましたが、うまくいかず、政治はさらに乱れていました。現地の豪族たちは、さかんに土地の開墾をすすめ、大きな経済力をつけると同時に、自分の利益を守るため武力をたくわえました。彼らは、やがて天皇家の血筋を引く源氏や平氏、有力貴族の出である藤原氏などを中心に武士たちがまとまり、武士団がつくられました。



武士の館 写真提供 国立歴史民俗博物館

武士の館は、用水路を兼ねた堀と土壁に囲まれ、数ヶ所に櫓門を配する防衛的性格を有したものだ。

堀の内部には、主屋、対屋、厨、廐舎、炭小屋、倉等が建てられ、堀の外には矢場や牧を取り囲む柵が設けられていた。



東国武士団の館とその付近